

育児・教育講演会

9月26日(日)、中央公民館において、育児・教育講演会が開催されました。

講師には、山本清洋鹿児島大学名誉教授を迎え、『遊びの中で育つ子どもたち』と題した講演が行われました。

山本名誉教授は、『伝承遊びと創作遊び』を育てる会の会長を務めるなど、長年、遊びをキーワードにした活動を行なっており、『トムソーヤからの贈りもの』をはじめとする遊びに関する著書も数多く執筆されています。



講師：山本清洋鹿児島大学
名誉教授

遊びには原理がある

昔の子ども達は、山や川などの大自然で遊ぶなかで知恵や体力を得てきました。

現代では、家の中の遊ぶ時間が増えた結果、自然の素晴らしさを見失い、環境の変化に耐えたり、強い意志を持って生きたり、目標に挑戦する力が低下しつつあるのだそうです。

山本名誉教授は、「遊びの裏には、すべて原理がある」といいます。

「竹とんぼは、なぜ飛ぶのか。コマはなぜ回り続けるのか。」など原理を考えることがとても重要なのだそうです。子ども達は、無意識のうちに、創造性を育み、遊びを通じて、身体力、精神力、社会力を養い、成長していくのだそうです。

失われる遊びにより失うもの

日本に伝わる伝統的な遊びには、それぞれの特性があります。

お手玉や、おはじきなどで手先の機能が発達し、鬼ごっこや影ふみで判断力や洞察力が養われていたのだそうです。

子ども達は、遊びを通じていろいろな事を学んできました。

テレビゲームの普及により、子供同士で遊ぶ時間や家族とふれあう時間が少なくなつた結果、感情をうまく表現できずに、キレる、ということに繋がるのだそうです。

失われる遊びによって、失われるものも多く、私達、大人も遊びの知識・技術を現代社会にはもちろん、大人社会へも普及させることが必要です。

最近の研究でお手玉が認知症の防止に効果があると発表がされたそうです。

山本名誉教授は、「お手玉が、また子供の世界に返つて来てほしい」と披露しながら訴えています。

親から子供へ祖父母から孫へ、世代を超えて楽しめる遊びを伝承してみても、いかがでしょうか。

【失われる遊び】 () は失われるもの

- 【草すべり】(調整力・身体操作の快)
- 【ビー球・おはじき・お手玉】(手先の機能)
- 【影ふみ・ケンパー】(判断力・洞察力)
- 【鬼ごっこ・かごめかごめ】(人とのふれあい・社会力)
- 【自然遊び】(勇気・自然界の認識・創造性)

毎月19日は育児の日

県では、今年4月より毎月19日を『育児の日』と定め、子育てを地域全体で応援する気運を盛り上げていくことにしています。

育児の日とは、『家庭』や『地域』、『職場』で子育てを支えていく取り組みを積極的に実施する日です。

皆さんもぜひ、遊びを取り入れた子供とのコミュニケーションや対話、地域活動に参加できる環境をぜひ作ってください。みんなで、できることから子育ての応援に取り組んでいきましょう。

